

事務事業名	まちづくり交付金公共下水道事業整備費		所属部局	建設部		単位番号	T520	
			所属課室	下水道課		課長名	五味 久	
	☐ 実施計画事業		所属担当	工務担当		担当者名	中込隆行	
基本政策	基本計画	III うるおいと利便性のある都市づくり	予算科目	会計	名称	款	項	目
政策	計画	14 上下水道の整備	事業区分	05	下水	0	1	0
施策	体系	23 下水道等の整備		0	2	0	1	0
			☐ 国の制度による義務的事業 ☐ 施設等維持管理事業 ☐ 県の制度による義務的事業 ☒ 補助金交付事業 ☐ 市の制度による義務的事業 ☐ その他の事業 ☐ 義務化されている協議会等の負担金					
事業期間	☐ 単年度のみ ☐ 単年度繰返 (開始年度 年度) ☐ 期間限定複数年度 (平成19 ~ 平成22 年度)		法令根拠	下水道法、都市計画法				
事務事業の概要	事業の内容・・・期間限定複数年度事業は次年度以降3年間の計画内容も記載 都市再生整備計画(楡形地区)に位置づけられた桃園地区約35haの公共下水道の整備を行う。平成22年度をもって、事業は終了した。 管渠整備延長 L=7,493m (基幹事業分 L=5,335m、提案事業分 L=2,158m)			事業費の主な内訳 (22年度)				
				項目(細節)	金額(千円)	項目(細節)	金額(千円)	
				工事請負費	93,295			
				工事負担金	1,224			
				補償費	12,420			
			計 106,939					

1 現状把握 (DO)

① 事務事業の目的と指標

① 活動	22年度活動実績	公共下水道整備面積 5.02ha
	23年度活動予定	平成22年度で事業終了
② 対象 (この事務事業は誰、何を対象にしているのか) *人や自然資源等	まちづくり交付金事業に位置づけられた公共下水道計画区域内の市民・整備区域	
③ 意図 (この事務事業により対象をどのような状態にしていのか、どのように変えるのか)	公共下水道を整備し、悪臭や水質の汚濁を防ぐとともに、公共用水域の保全を図る。	
④ 上位目的 (どのような結果に結び付けるのか)	市民が安心して快適に暮らせる生活環境の整備するとともに、河川等の公共水域の水質を保全して健全な生活環境を保持する。	

⑤ 活動指標 (事務事業の活動量を表す指標) 数字は記入しない	名称	単位
⇒	公共下水道(汚水)整備面積	ha
⑥ 対象指標 (対象の大きさを表す指標) 数字は記入しない	名称	単位
⇒	下水道(汚水)整備計画区域の面積	ha
⑦ 成果指標 (対象における意図の達成度を表す指標) 数字は記入しない	名称	単位
⇒	下水道(汚水)が整備された計画区域の割合	%
⑧ 上位成果指標 (結果の達成度を表す指標) 数字は記入しない	名称	単位
⇒	南アルプス市の住みやすさについての満足度	%
	市内を流れる河川の水質 (BOD)	mg/ℓ

(2) 事業費・指標の推移			単位	21年度 (決算・実績)	22年度 (決算・実績)	23年度 (予算・目標)	24年度 (次年度計画・目標)	25年度 (計画・目標)	26年度 (計画・目標)	最終 年度 (トータルコスト・目標)	
年間 トータル コスト	事業費	財源内訳									
		国庫支出金	千円	32,305	15,755						
		県支出金	千円								
		地方債	千円	37,500	54,000						
		その他	千円	6,053	3,741						
		一般財源	千円	8,300	33,444						
		事業費計 (A)	千円	84,158	106,940	0	0	0	0	0	
	人件費	正規職員従事人数	人	1	1						
		延べ業務時間	時間	400	400						
		人件費計 (B)	千円	1,784	1,784	0	0	0	0	0	
(A)+(B)		千円	85,942	108,724	0	0	0	0	0		
活動指標		アイウ	ha	5.3	5.0						
対象指標		アイウ	ha	35.0	35.0						
成果指標		アイウ	%	84.4	98.7						
上位成果指標		アイ	%	57.5	70.8						
		イ	mg/ℓ	2.5	1.8						

(3) この事務事業を取り巻く状況 (対象者・社会状況等) の変化、市民意見等

① この事務事業はいつ頃どんな経緯で開始されたのか?	平成17年度に策定した都市再生整備計画(楡形地区)の事業として、桃園地区の約35haが位置づけられ、平成18年度より事業に着手した。
② 事務事業を取り巻く状況は開始時または5年前と比べてどう変化しているか? また、今後の予測は?	平成22年度をもって事業が完了し、河川の水質の向上が見られ、公共水域の保全と快適な生活環境の整備が図れた。
③ 事務事業に対して関係者(市民、事業対象者、議会等)からどんな意見・要望が寄せられているか?	水路の悪臭の苦情や浸透処理の比較的多い地域であったため、計画的に下水道(汚水)が整備され、他地区より早期に下水道が使用できるようになり喜ばれている。

(4) 改革改善の取り組み状況

① 改革改善の取り組み実施は?	☒ 取り組みしている ⇒ [内容↓] ☐ 取り組みしていない ⇒ [理由↓]
② これまでの改革改善の取り組み状況・経過 (取り組みしていない場合はその理由)	5年間で事業を完了するため、埋設箇所の検討、工法の検討を行い工事にかかるコストの削減を図ると共に、綿密な進捗管理を行い、効率的な事業実施を図った。
③ H 22年度に実施した改革改善の内容	事務費が交付金対象から除外されたため、事務経費の削減に努めた。

事務事業名	まちづくり交付金公共下水道事業整備費	所属部	建設部	所属課	下水道課
-------	--------------------	-----	-----	-----	------

2 評価 (Check1) 担当者による事後評価 (複数年度事業は途中評価)

目的 妥当性 評価	①政策体系との整合性 この事務事業の目的は市の政策体系の施策に結びつき、貢献しているか？意図が上位目的に結びついているか？	☐ 結びついていない (見直し余地がある) ⇒ [理由 ↓] ⇒ 3評価 (Check2)・4今後の方向性に反映 ☒ 結びついている ⇒ [理由 ↓] この事業により、公共下水道事業(汚水)の整備区域の拡大が図れ、快適な生活環境の改善につながっている。
	② 公共関与の妥当性 この事務事業を税金を投入して市が行わなければならないのか？民間やNPOに委ねることは可能か？	☐ 見直し余地がある ⇒ [理由 ↓] ⇒ 3評価 (Check2)・4今後の方向性に反映 ☒ 妥当である ⇒ [理由 ↓] 公共水域の保全と快適な生活環境の改善など市民を対象として実施している事業であり、整備された区域の市民より、公共下水道(汚水)事業で得られた利益の対価として、整備にかかった費用の一部を受益者負担金としていただいているので妥当である。
	③ 維持・継続の妥当性 現状の対象と意図、成果から考えて、この事務事業を将来にわたり、維持・継続していくことは妥当か？目的や事業の必要性を見直す余地はあるか？	☐ 見直し余地がある ⇒ [理由 ↓] ⇒ 3評価 (Check2)・4今後の方向性に反映 ☒ 適切である ⇒ [理由 ↓] この事業で下水道等の整備をすることにより、悪臭や水質の汚濁を防ぎ公共用水域の保全を行うとともに生活環境の改善を図っているため、適切である。
有効性 評価	④ 成果の向上余地 事務事業のやり方・進め方を変えることで成果を向上させることはできるか？できない場合は何が原因でできないのか？	☐ 向上余地がある ⇒ [理由 ↓] ⇒ 3評価 (Check2)・4今後の方向性に反映 ☒ 向上余地がない ⇒ [理由 ↓] 事業完了のため。
	⑤ 類似事業との統合・連携の可能性 類似した目的を持つ事務事業が他にあるか？類似事務事業がある場合、その事務事業との統合や連携を図ることはできるか？	☐ 類似事務事業がある ⇒ (類似する事務事業の名称を記入 ↓) ☐ 統合・連携ができる ⇒ [理由と具体案 ↓] ⇒ 3評価 (Check2)・4今後の方向性に反映 ☒ 統合・連携ができない ⇒ [理由 ↓] 事業完了のため。
	⑥ 休止・廃止した時の影響及び休止・廃止の可能性 この事務事業を休止・廃止した場合影響はあるか？また成果から考えて、休止・廃止することはできるか？	☐ 影響なし ☒ 影響あり ⇒ [理由と影響の内容 ↓] 事業完了のため。 ☐ 休止・廃止ができる ☒ 休止・廃止できない ⇒ [理由 ↓] 事業完了のため。
効率性 評価	⑦ 事業費の削減余地 成果を下げずに事業費(コスト)を削減できないか？(仕様や工法の適正化、住民の協力など)	☐ 削減余地がある ⇒ [理由・具体案 ↓] ⇒ 3評価 (Check2)・4今後の方向性に反映 ☒ 削減余地がない ⇒ [理由 ↓] 事業完了のため。
	⑧ 人件費の削減余地 成果を下げずに人件費を削減できないか？(事業のやり方の見直しによる業務時間の削減や臨時職員対応や外部委託による削減はできるか？)	☐ 削減余地がある ⇒ [理由・具体案 ↓] ⇒ 3評価 (Check2)・4今後の方向性に反映 ☒ 削減余地がない ⇒ [理由 ↓] 事業完了のため。
公平性 評価	⑨ 受益機会・受益者負担の適正化余地 事務事業の内容が一部の受益者に偏っていないか？受益者負担を見直す必要はないか？公平公正か？	☐ 見直し余地がある ⇒ [理由・具体案 ↓] ⇒ 3評価 (Check2)・4今後の方向性に反映 ☒ 公平・公正である ⇒ [理由 ↓] 公共水域の保全と快適な生活環境の創生など市民を対象として実施している事業であり、整備され事業効果が受けられる区域となった市民より、建設費の一部を受益者負担金として負担していただいているので妥当である。

3 評価 (Check2) 担当課管理者による評価結果と総括

(1) 1次評価者としての評価結果	(2) 1次評価の総括 (事務事業を実施した結果を振り返り気づいたこと、課題、今後の方向性等について)
① 目的妥当性 ☐ 適切 ☐ 見直し余地あり ② 有効性 ☐ 適切 ☐ 見直し余地あり ③ 効率性 ☐ 適切 ☐ 見直し余地あり ④ 公平性 ☐ 適切 ☐ 見直し余地あり	

4 今後の方向性 (事務事業担当課案) (PLAN)

(1) 今後の事務事業の方向性 (Check1の結果から定める)・・・複数選択可	(3) 改革・改善による方向性																					
☐ 廃止 (目的妥当性①、②、③の結果) ☐ 事業統合・連携 (有効性⑤の結果) ☐ 公平性改善 (公平性⑨の結果) ☐ 休止 (目的妥当性①、②、③の結果) ☐ 成果向上 (有効性④の結果) ☐ 現状維持 (全評価項目で適切) ☐ 必要性検討 (目的妥当性①、②、③の結果) ☐ コスト削減 (効率性⑦、⑧の結果)	<table border="1"> <tr> <th colspan="2" rowspan="2"></th> <th colspan="3">コスト水準</th> </tr> <tr> <th>削減</th> <th>維持</th> <th>増加</th> </tr> <tr> <th rowspan="3">成果水準</th> <th>向上</th> <td>☐</td> <td>☐</td> <td>☐</td> </tr> <tr> <th>維持</th> <td>☐</td> <td>☐</td> <td></td> </tr> <tr> <th>低下</th> <td>☐</td> <td></td> <td></td> </tr> </table> ※ 廃止・休止の場合は記入不要			コスト水準			削減	維持	増加	成果水準	向上	☐	☐	☐	維持	☐	☐		低下	☐		
				コスト水準																		
		削減	維持	増加																		
成果水準	向上	☐	☐	☐																		
	維持	☐	☐																			
	低下	☐																				
(2) 改革改善案について																						
① ② ③																						
(4) 改革改善を実現する上で解決すべき課題とその解決策	(5) 事務事業優先度評価結果																					
① ② ③	成果優先度評価結果 コスト削減優先度評価結果																					